

精神科学

【単位数：2単位，授業 26 コマ，予備 4コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

宮田 淳 教授（精神科学）

2 教育目標

（1） ねらい（Ⅲ-3-b, Ⅲ-4-b, Ⅲ-5-b）

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために，精神科領域疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナリズム」の涵養を図る。
- ② 統合失調症，双極症，うつ病，認知症，脳の損傷や身体疾患に伴う精神症状，てんかん，不安症，児童及び思春期に認められる精神疾患などを理解し，診断法及び治療法を習得する。
- ③ 心理教育や心理療法（精神療法）などの面接技法，電気けいれん療法などの身体的治療法を理解する。
- ④ 医師-患者関係の重要性を認識し，特に人権の制限に関わる精神科入院に関して，精神保健福祉法などの法律について理解を深める。

（2） 学修目標

- ① 精神医学総論中の症状学については，精神症状を分類し，患者の主観的体験あるいは客観的な兆候の記述を正確に説明することができる。
- ② 代表的疾患の，概念・症状・病型・経過・予後などを列記し，適切な薬物療法及びその他の治療法を選択し，向精神薬の副作用についても具体的に述べるができる。

3 成績の判定・評価

（1） 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	90%	各セクションで問題を作成し，これを実施する。 例年通り 10-12 セクションの記述式，多肢選択問題，正誤問題とする。
レポート	○	10%	授業を受ける前と後で，精神科疾患に対してどのようなイメージの変化があったかをレポートさせる。 【再評価について】 欠席時の対応は科目責任者へ問合せすること。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から 10 点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（2） 合格基準

評価対象の合計が 60%以上（又は 60 点以上）で合格とする。

（3） 再試験・再評価の方法

定期試験で 60%未満の場合は，再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する（60%以上で合格）。

（4） 課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績結果について公表する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
標準精神医学	尾崎紀夫	医学書院	精神医学の基本的内容が網羅されている。
講義前後に AIDLE-K にアップロードされた資料			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
臨床精神医学講座8 薬物・アルコール関連障害	松下正明	中山書店	薬物・アルコール関連障害について詳述されている。
精神薬理学エッセンシャルズ	S.M.Stahl	メディカルサイエンスインターナショナル	精神薬理について詳述されている。
てんかん学ハンドブック 第4版	兼本浩祐	医学書院	てんかんについて詳述されている。
ケアする人の対話スキル ABCD	堀越 勝	日本看護協会出版会	精神療法だけでなく医師一般のための対話スキルがわかりやすく書かれている。
統合失調症	福田正人	医学書院	統合失調症について詳述されている。(特に第1章)
認知症ハンドブック	中島健二	医学書院	認知症の予防診断治療について幅広く記載されている。

6 準備学習（予習・復習）

予習： Diversity & inclusion について調べておくこと(1コマあたり0.5時間)。

復習： 講義で学習した項目に該当する分野について、参考図書を用いて確認すること(1日あたり約1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に PowerPoint による大教室での知識伝達型の講義であるが、質疑応答やグループ・ディスカッションなどを適宜導入する。

(2) 講義の内容

初回到精神医学総論，次に症状学についての講義をし，以降は各論講義となる予定である。